

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

第3学年 算数科学習指導案

R2年度 那覇市様式

年間指導計画 (3) 学年 (10) 月計画 P ()

1 単元の概要

単元名	あまりのあるわり算
内容のまとめ	第3学年「A 数と計算」(4) 「除法」
単元の目標	(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて計算が確実にできる。 (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算方法に活かしたりすることができる。 (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

小学校では、下記の【内容のまとめ】を、幾つかに分割して単元とする場合やそのまま単元とする場合、幾つかの【内容のまとめ】を組み合わせて単元とする場合がある。※各学校において適切に構成する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について理解している。 ② 除数と商が共に一位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合にあまりを出すことや、あまりは除数より小さいことを理解している。 文末「～(理解)している」「～(することができる)できる」	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 文末「～している」「～することができる」	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え、具合物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など 文末「～(しようと)している」

3 単元について

(1)児童(生徒)観

レディネストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。
・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述する。
・どこでどのようなつまずき(課題)があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動する。

(2)教材観

単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。

- ・学習指導要領との関連を示す。
- ・単元(題材)の学習内容と、そのねらいを記述する。
- ・適切な単元の構成内容であることを記述する。

(3)指導観

ねらい達成に向けて、どこで、どのような手立てをするのか、指導のポイントを記述する。

- ・(1)(2)の記述を踏まえ、子どもの不十分な点を補う手立てを具体的に記述する。
- ・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記述する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

4 単元の指導計画(全 10 時間)

《形》形成的評価 《総》総括的評価

小単元	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 あまりのあるわり算	1	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 【形成的評価】 = 《形》、 「～確認する。」または【総括的評価】 = 《総》、「～記録する。」のどちらかを計画し記載する。	各時の学習内容とみとる観点を記載する。 【知・技】、【思・判・表】、【主体的態度】	【思・判・表】①《形》 行動観察、ノート分析 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しているか確認する。
2	2	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。		【知・技】①《形》 ノート分析
3	3	余りと除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 【形成的評価】 = 《形》、 「～確認する。」または【総括的評価】 = 《総》、「～記録する。」のどちらかを計画し記載する。	各時の観点をみとる方法を記載する。(評価材料) 【例】・ノート分析・ノート観察・ノート記録・行動観察・小テスト等	【知・技】③《形》 ノート分析
4 一 本 時	4	・等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるか考える。 ・等分除の場面で、答えの方を考える。	(評価材料で) 何をどのようにみとるのかを具体的に【B】基準として記載する。5(3)本時の展開の中には、【B】基準に満たない【C】の想定をしてどのような指導をするのか手立てを記載する。	【思・判・表】①《総》 行動観察、ノート分析 等分除の場面でも割り切れない場合の除法が適用できることを、プロックや図を用いて表現しているか記録する。
5	5	割り切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。		【知・技】②《形》 ノート分析
2 あまりの見方	6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すれば良いかを考える。		【主体的態度】①《総》 ノート分析
	7	商を+1する場合やしない場合について、それぞれ考える。		【思・判・表】②《形》 行動観察、ノート分析
たしかめ問題	8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。(章末問題)		【知・技】①②③《形》 ノート分析
評価テスト	9	学習内容の定着を確認する。	【知・技】の評価として、単元末テストになじみやすさがあるが、テストのみで評価するのではなく、毎時間の机頭指導などにおいて児童生徒の学習状況を把握(確認)し、評価の妥当性を確保することが望ましい。(例)第2,3,5,8時	【知・技】①②③《総》 ペーパーテスト 【思・判・表】②《総》 ノート分析
	10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決したりする。		【主体的態度】②《総》 ノート分析

小単元については、教科によって『〇次』や「1〇〇」と表し方が違います。指導計画作成の際には、確認の上、記載する。

児童生徒の課題を踏まえ、「数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して」、指導事項を明確にした単元づくりをする。また、各場面で言語活動を充実させ、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるよう工夫する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

5 本時の学習指導について

(1) 本時の目標

等分除の場面についても余りがある場合の除法が適切なことができる。

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめる。

(2) 授業仮説

「〇〇〇において、〇〇〇すれば、〇〇〇になるであろう。」
場・内容の限定
投入条件
方法・手立て
身に付けさせたい力（資質・能力）
ねらい・めざす子ども

(3) 本時の展開（第4時）

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学習活動	指導上の留意点 <input type="checkbox"/> 教師の手立て <input type="checkbox"/> 予想される児童（生徒）の反応	評価項目（方法）
導入（）分	1 具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・本時の目標を確認し、児童生徒に学習の見通しをもたせるような、「めあて」を児童生徒向けの言葉で提示する。 ・児童生徒の学習意欲を促すような資料、問題提示の工夫する。	単元の評価規準を具体化し、本時において1～2観点を評価する。
展開（）分	2 めあて	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。	どの観点でどのような方法で評価するのかを記載する。
（）分	3 (1) 「授業仮説」につながる学習活動は分かりやすく表記する。（例：太字ゴシック体等） (2) [努力を要する児童生徒への手立て] ・ブロックを操作して、「はじめの数」や「一人分」の数との関係を捉えさせる。 ・互いの考えを交流させる場面では、納得した解決方法をノートに記述させる。 (3)	・予想される児童生徒の反応と、それに対応した教師の手立てを順序立てて記述する。 ・自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・ペアやグループ、全体でかかわり合い、学び合う活動を取り入れる。 ・努力を要する児童生徒のつまずきとそれに対応した教師の手立てを書く。	【思・判・表】①《総》行動観察、ノート分析 〈概ね満足〉等分除の場面でも割り切れない場合の除法が適用できることを、ブロックや図を用いて表現している。
まとめ（）分	4 まとめ	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。	
	5	・「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で「何を学んだか」を明確にする。児童生徒の言葉を生かしてまとめる。 ・本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題などについて、児童生徒に振り返らせる。	

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

(4) 板書計画（写真も可・項目だけでなく、実際に板書することを書く・ICT機器の活用について）

--